時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行廿四字詰	一日限	一行二付 二日以上 六日迄	一行二付 七日以上 十五日迄	一行二付 十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至廿行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢八厘

時事新報

鐵道乘車切手の改良を望む

横濱本町一商人投書

鐵道は線路の延長に應じて倍々便利の働きを爲す者なれども他の方向より顧みれば同時に種々の不便利顯はれ來りて乘客の苦狀も少からず現に小生の實驗に於て明白なるは外ならず今を距る數年前日本鐵道會社の工事未だ起らずして僅々東京横濱間十八英里の線路れみ開け居たる當時に在りては前後一時間の汽車の乘詰めに左ほど不便を感じたるともなく駕籠人力車の昔に較べては轉た時間の立易きを惜むの想ひありしに既にして鐵道は品川より東京の裏手を經過し日本鐵道會社の線路赤羽に通じて一線は高崎前橋より更に官線に接して碓氷峠の險なる横川までの連絡も通じ他の一線は大宮より宇都宮白河と迤々北方に線路を進めて昨年十二月に彌よ〳〵東京仙臺間の鐵道全通したるは即ち線路の延長に應じて便利の働き多々倍々顯はれたる者あらんとして我輩は爾來商用を兼ね横濱より數回福嶋仙臺の邊に往復を試みたるに從前東京横濱間を上下したる時とは案の相違にして動に觸れ事に當り種々の不便不都合を感じたる其一二を擧ぐれば白河以北は冬季大抵降雪酷天ならざるなく氣候最も凜烈たるに客車の製甚だ簡易にして乘客に溫熱を與ふるの仕掛如何と云ふに西洋北地の鐵道の如く蒸汽筒の設けあるにも非ざれば二百餘英里の鐵道に十二時間の乘詰めは四肢寒に迫られて殆んど凍死の憂を爲したり其外客車の中は湯茶の振舞ひは申すに及ばず冷水一滴をも得る能はざるの始末にして或は辨當さへも宇都宮邊に於て早くこれを購はざれば仙臺までの空腹を忍ばざる可らず消た寒中旅客に溫熱を與へざるの苦狀い姑らく問はざる所とするも之に反して夏期に至らば炎熱の苦は如何ある可きや元來日本の鐵道は狹軌條の法式なるが故に客車の作るも大ある能はず隨て天井低く横幅狹ければ縱令へ鐵道の運力、風を切て駛るにもせよ夏中の旅客は必ず冬季よりも一層の苦狀を唱ふるとならん迚我輩聊か掛念したれども右の事は指て論せず唯愛に我輩の一言を欲する者は現行の乘車切手法未だ手順と整さずして乘客屢々其不便を訴ふるの一事なり蓋し現今の鐵道乘車切手は東京横濱間に行はるゝ上中等往復定期兩切手を除くの外は一切片道切手にして其日限りの者のみなれば例へば横濱より仙臺間に商用ありて途中各所に上下する場合には停車場毎に一々切手を買直すの必要あるは言ふに及ばず折角買求めたる切手にても何にか所用の爲めに一日の出發を遲延すれば無効たるを免れず或い如何に長距離の鐵道を乘用するも其賃錢に割引なく切手買求めの法の如きも寧ろ手間のみ多くして實際事を缺くの不便利はなる可きや我輩乘客の資格として大に今の乘車切手法に改良を望まざるを得ざるなり

我輩衷心流の考に於て取敢へず先づ左れ數種の切手發行を所望する者なり

第一下等往復切手　東京横濱間に就て之を言ふに現在上中兩等にのみ往復切手を發行して獨り下等に及ばざるは如何なる精神に依る者か我輩その旨趣を詳にせずと雖も日常商人の乘用するい重に下等客車なるが故に序に下等の往復切手をも發行せられ度況い商人社會一同の願なり其他日本鐵道會社の線路に對しても情願は同樣なり或は下等客車のみを往復切手と出せとすれば更に其賃錢をも割引せざる可らず斯ては最低の賃錢を更に其上に減價するの道理にして營業上利益に引合はざるの次第なれば其事行はれ難しとの議論もあらんなれども元來往復切手の用は賃錢の割引を望むと云ふよりも一度切手を購へば上下往復兩度の用を兼帶するの簡便主義と言ふべし

たるに在る者なれば我輩は敢て其減價を望まず片道賃錢の二倍と有の儘に支拂ふて不都合なきが故に急に下等往復の切手を發行せて我々の手間丈けも省かれんと希望に堪へず

第二里數切手　西洋諸國就中米國に行はるゝ切手法中の最も便利なる者は里數切手なると彼地に遊びふる人は實驗に於て明かなる可し此切手の所有者は發行鐵道會社の線路内孰れの停車場より上下するも全く其人の隨意にて唯乘用里數の多少に從ひ豫て會社の發行したる切手帳より車掌其里數丈けの切手を切取るの仕組なる例へば東京仙臺間を往復するにも或る時い宇都宮にて車を下り、用を果して再び同所より東京に引返し更に高崎に赴きて其地の商用を終り次第逆に戻して更に宇都宮福嶋より仙臺に向ふなど云ふの所用は我々商人は毎々珍らしからぬ話にして斯る場合には往復切手定期切手も特に足らず里數切手發行の我々社會に必要なるは此點に在るものなり

第三乘數切手　東京横濱間には現今上中等の定期切手ありれども此法は定期中乘客の日々乘車すると多ければ多きほどに其人の利益を爲すに反對して若しも事故疾病あるがために往復を怠る時い切手所有者は又夫れだけの損失を受ざる可らず特に日本の如きは人事の活動西洋諸國と趣を別にして自のら一種悠緩の所もあれば定期切手と購ふにもせよ日々繁く使用するに非ずして其間切手を遊ばせ置くは無益なりと人情あれに制せられて其使用今日廣く世に行はれざるは無理ならず乘數切手は之に反して百回五十回各其乘用の度數に應じ永く使用すると雖ども定期切手の如く其所有者に損失を與ふるの恐れなければ往來の繁劇なる地方例へば東京横濱大坂神戸間の如き線路には我輩寧ろ定期切手よりも乘數切手の發行なかる可らずと信ずるなり　（未完）

官報

○陸軍省令第一號

客年第二次徴集ノ現役輜重輜卒ニシテ來四月及八月ニ入營セシムル人員ハ鐵嶺毎ニ六十名（東京大坂兩鎮臺ハ九十名）宛ト定メ其他ハ鄉里ニ於テ服役セシム

○鎮御辨利之爲メ炭驗水及ビ竹籠細工陶器雅品其他珍物澤山荷着仕候間御遊歩梅見旁不相替御用向奉希上候　東都元町向嶋　御料理御旅宿

今般カナトル民來ノ經驗ヲ以テ向本幹事ヲ

官私諸學校入學志願生陸海軍人及巡査志願者目下諸學校入學募集期前ニテ下檢査ヲ乞フ者非常ニ多ク殊ニ徴兵適齢者ノ如キハ此ヲ

身體下檢査所
本所ハ徴兵適齢者ノ如キハ此ヲ
但鄉里ニ在テ服役スル者ハ客年陸軍省令第十一號ヲ適用スベシ
明治廿一年二月三日　陸軍大臣伯爵大山巖
○辭令
小野濱造艦所長海軍大技監　山縣少太郎
免本職補艦政局機關課長　海軍少技監　山口長彌
補小野濱造艦所長　小野濱造艦所製造科長　桐野利邦
兼同所主庫海軍少技監　桐野利邦
免本職並兼職　海軍少技監
待命被仰付但東京ニ滯在スベシ（以上二月一日）
（各通）　濱賀屯營長海軍大佐　濱武慎
横須賀鎮守府建築部長海軍大佐　濱武慎　兼輔
免本職
（各通）　海軍大佐　濱武慎
海軍大佐　今井兼輔
待命被仰付但東京ニ滯在スベシ
横須賀屯營分隊長海軍大尉　宍道幸七郎
横須賀屯營分隊長海軍大尉　淺田吉正
横須賀屯營分隊長海軍大尉　山崎喜勝
（各通）　横須賀屯營分隊長海軍大尉　向井義勝
免本職
（各通）　海軍大尉　宍道幸七郎
海軍大尉　淺田吉正
待命被仰付但横須賀ニ滯在スベシ
海軍大尉　山崎喜勝
待命被仰付但東京ニ滯在スベシ
海軍大尉　向井義勝
待命被仰付但浦賀ニ滯在スベシ（以上二月二日）

○天津蘆臺間鐵道株金募集　天津蘆臺間は鐵道株金に關して世評紛々たるが右は此程議定せしと見え昨年十二月廿八日發兌の時報に該鐵道株金の書式を掲載せり其大要を抄譯すれば左の如しと昨年十二月廿九日附を以て在天津領事館より報告ありたり（外務省）

本社い前に光緒十二年に於て株銀廿五萬兩を募集し以て開平鐵道布設に從事せし處既に同所及胥莊（即ち蘆臺）間は工事全く落成し充分の實効を奏せり而して此程海軍衙門より開莊天津間に鐵道を接架し開平鐵道會社一手の儀攝に歸せしめんとを伺濟になりより依て本社にては右に關する規則を議定せり則ち開莊より太沽の北岸を經て天嶺北（白河の南岸）に至るまで鐵道を布設せんらめ要する所の費用總額は一百餘萬兩の豫算にして先づ一萬株を募集し一株は天津行平（貿易取引に用ふる衡名）化寶銀（銀質九九二即ち無質十分の八を含めるもの）一百兩にして合計一百萬兩とす嗣後漸次鐵道起工の事あらば天津より三五百里間は都て一會社の統理より歸して利益を分配し且つ先づ舊株主をして入株せしむべし右の次第は既に北洋大臣李氏の准可を得たるを以て右規則に照準して既に其事業に着手せり右い光緒十四年に於て落成の見込なれば同年よりは毎年度末に於て運賃總上り高より經費と控除し其殘額を以株券に對する利息とし本社より株券の高に應して配當す尚は別ふ利券を造り本券と共に發給すべき即ち株金領收の上は株券及利券一枚宛を渡し其證憑とす後若し此株券と他人に賣却せんとするときは其由を本社に申出で讓渡しの手續を爲すべし餘い規則書に詳なり云々

○朝鮮元山港居留日本人戶口　昨年十二月調査同港居留本邦人の數は合計三百七十四人、内男二百四十三人、女百三十一人にして戶數い八十二戶なり（外務省）

雜報

○赤色の池水分析　大和國奈良猿澤の池水數〻して血色を顯せしを由は去る頃の本紙上に掲げしが今度京都上京廿九組二王門町中馬高介氏が右池水を分析せしに鐵、アンモニヤ、林檎兒、炭酸、珪酸、粘土、亞硝酸、鹽酸を含有し居りし由あり

○東京鎮臺軍法會議　にて去る一月中憲兵屯所其他より差廻したる軍人軍屬れ被告人は總計三十六名にて宣告濟となりしは二十二名なりしと

○感化院の英學　同院にては是迄普通教育、工業傳習、建傷教育、科を加へ中等學に就く者の不便利なりしが今之逸亡者次第に減じ在生徒は二百餘名に達せり

○荷物運送　明治十一年中の荷物運送の數は合計三百八十萬餘個にして其内訳は次の如し

荷物	個數
布哇紀州蜜柑	二百萬個
編笠中なる	一百萬個
業組合設	一百萬個
物價	物價
なるか如	如
りと謂ふ	謂ふ
のものを	のものを
を東洋に	東洋に
の不廉な	不廉な
て勞力に	勞力に
送するの	送するの
情に依る	情に依る
は其員	其員
割合を見	割合を見
賃錢の割	賃錢の割
麵包師	麵包師
泥匠	泥匠
鍛冶	鍛冶
靴師	靴師
書記	書記
大工	大工
馬車師	馬車師
馬車夫	馬車夫
通常ニ	通常ニ
仕立師	仕立師
日雇勞	日雇勞
棧橋勞	棧橋勞
甘蔗耕	甘蔗耕
船大工	船大工
水夫	水夫
馬夫	馬夫

右の賃金すれば時今假に金一日の賃を以て正は勞夫の賃は勞夫の賃して且つ荷物の取

今便宜布中に在人に比せる何を察せを失ふた故れは働に）所以（人口多を生ずる

牧畜　布りと謂ふの數差わ知るされ入は荷も無税にて特に檢る等其注賃錢する米移住民